

国宝 彦根城



世界文化遺産暫定リスト登録

「クロースアップ」井伊直弼



内堀に面した金亀児童公園
に建つ「井伊直弼銅像」。
近くには「花の生涯記念碑」もある。

花の生涯——井伊直弼は「開国の父」
彦根での青春時代をたどる。

彦根で最も有名な歴史上の人物といえる、なんといっても井伊直弼。
江戸末期、日本を開国に導いた大老としてよく知られていますが、
彦根での青春の日々はさらに興味深いものがあります。



桜田門外の変の2ヶ月前に描かれた「井伊直弼画像」。
和歌を自賛し清涼寺に奉納した。

発行/彦根市教育委員会文化財課
〒522-0001 彦根市尾末町1-38
TEL 0749-26-5833 FAX 0749-26-5899
制作/(株)永昌堂印刷

直弼の埋木舎時代

直弼は文化12年(1815)10月29日、11代(14代)藩主
直中の14男として槻御殿(現在の玄宮楽々園)で生まれ
た。他家を継いだり家臣に養われるなどの機会に恵まれ
なかった直弼は、父の死とともに槻御殿を出て、中堀に
面した尾末町の屋敷に移った。

彼は「世の中をよそに見つても埋もれ木の埋もれて
おらむ心なき身は」という和歌を詠み、自らこの屋敷を
「埋木舎」と名付けた。一生を埋木舎で朽ち果てること
を覚悟した直弼であったが、失意のうちにも禅・国学
と和歌・能と狂言・居合・茶の湯など「なすべき業」に
全力を傾けた。

32歳のとき、兄直元の病死により思いがけず世子と
なり、35歳で藩主に就任した。

そして、大老として日米修好通商条約に調印。しかし、
2年後の万延元年(1860)3月3日、江戸城桜田門外に
おいて攘夷派に襲われ、46歳の生涯を閉じた。



当時の面影を伝える埋木舎。
邸内には茶室清露軒(じゅろけん)も残っている。



彦根城四季折々の魅力

訪れる人々の心をひきつける歴史とロマンの古城。

彦根城は、JR彦根駅の西方、緑の低い丘に白亜の天守を頂き、二重の堀に囲まれた城郭が、
ほぼ昔のまま残り、姫路城などと天下の名城を競っています。とくに月明かりに浮かぶ城は美しく、
琵琶湖八景の一つに数えられているほど。この城は、初代藩主井伊直政の嫡子・直継と直孝によって約20年の
歳月をかけて築城され、元和8年(1622)に完成。以来、彦根藩井伊家三十万石の所領を有する城として、
今日では彦根の象徴として、気高い雄姿を誇っています。一度訪れたらまた来たくなる——彦根城はそんな
不思議な魅力があります。歴史とロマンのあふれる古城彦根城はあなたを遠く江戸時代へと誘います。

夏 深緑悠々

あややかな緑に包まれ、美し元の中に力強さがある。

春 桜花爛漫

彦根城入城のハルハルは絶景といふべし。

秋 紅葉遊山

赤い山と緑の城のコントラストが美しい。

冬 薄雪凜々

白ペールをかけた城に、静寂の世界が広がる。



国宝・天守の気品と偉容

独特の美と意匠を誇る城郭建築の最高峰。

内部の特徴



隠し部屋

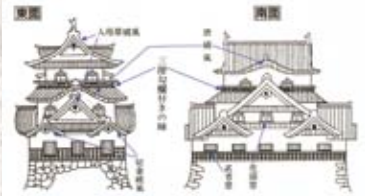
2階東・西側、3階南・北側の計4ヶ所ある。中はそれぞれ4～5人が入れる広さがある。多様な破風を造った結果であり、隠し部屋の意図があったかどうかは不明である。



鉄砲狭間

敵の来襲に鉄砲で防戦するための狭間、外からは見えないように、しつこい壁が塗りこめられている。緊急の際は、壁を突き破って使用することになる。同じ仕様の「矢狭間」もある。天守内には75箇所もの鉄砲、矢狭間がみられる。

外観の特徴



変化に富む破風

丸みを帯びた唐破風や千鳥破風・切妻破風を駆使した変化のある屋根。他の天守閣にはない美しさがある。

花頭窓

本来、寺院建築に使われた曲線が美しい窓。

高欄付きの廻縁

この縁は、二重三重の破風にさざぎられ、周囲を回ることはいできない。

牛蒡積み

一見粗雑に見えるが実は堅固な石垣。天守閣のほか、天秤櫓の石垣も東半分がこの積み方となっている。

1階北側の壁の構造

敵が攻め寄せる外側を、二重壁とし間に栗石を詰めている。防弾の効果を高める工夫である。

いくつもの破風を巧みに組合せ、美しい曲線の調和をみせる天守。つしりとした牛蒡積みと呼ばれる石垣の上に、三重の天守がそびえ立っています。京極高次が築いた天津城から移築されたといわれ、慶長12年(1607)頃に完成しました。当時は18万石の時代で、規模はあまり大きくありませんが、富度21m、外観の美しさだけでなく、城本来の機能にも優れています。昭和27年(1952)に国宝に指定。現存する国宝の天守は、彦根城以外には姫路・松本・犬山城だけです。



落し積み



牛蒡積み

てんびんやぐら

天秤櫓(重文)

表門から坂道を登りつめたところにある。廊下橋(非常時には落し橋)を中央に、天秤のように左右対称の建物。長浜城大手門を移築したものと伝えている。石垣は右側が築城当時の牛蒡積み、左側が江戸後期の改修による落し積みとなっている。

さわぐちたもんやぐら

二の丸佐和口多聞櫓(重文)



佐和口に向って左翼に伸びる白壁の櫓。明和4年(1767)に火災で類焼し、現在の建物は明和6年から8年にかけて再建されたもの。



さんじゅうやぐら

西の丸三重櫓(重文)

西の丸の西に建つ櫓で、さらに西に張り出した出曲輪との間に深い堀切を設ける。西方の搦め手(裏手)からの敵に備えた守りの要であった。



旧西郷屋敷長屋門

家老屋敷の長屋門。門の両脇に出窓を設けるなど、高い格式を示す豪壮な造りとなっている。



たいこもんやぐら

太鼓門櫓(重文)

天守がある本丸表口をかためる櫓門で、城内合図の太鼓を置いたところから名付けられた。建物の背面が開放され、高欄付きの廊下となっており、櫓にはたいへん稀な構造となっている。



うまや

馬屋(重文)

こけらぶきの屋根が美しい馬屋である。藩主などの馬21頭がつながれていた。城内に残る馬屋は全国でも彦根城にしかない珍しい建物である。



ごんきゆうえん

玄宮園(名勝)

城の北東にある旧大名庭園で、4代藩主直興が延宝5年(1677)から7年にかけて造営した。中国の宮廷に付属した庭園を「玄宮」と言ったことから命名されたと考えられる。江戸時代初期の庭を現代に伝える名園である。大きな池に突き出すように建つ臨池園、鳳翔台といった建物のほか、広大な池泉を中心に池中の島や入江に架かる9つの橋など、変化に富んだ回遊式庭園となっている。花の香りに輝き、紅葉、雪景色と、四季折々の風情を大名気分で味わえる。

ほうしょうだい

鳳翔台(茶室)

玄宮園内の築山にある、わびた趣きの数寄屋建築である。玄宮園の美しさを鑑賞するには最適の場所で、ここでの薄茶の味わいは格別の趣きがある。(9:00～16:00、一服500円)



いろは松

二の丸佐和口多聞櫓前、中堀に沿って植えられた松。最初、47本植えられたので、いろは47文字になぞらえ、その名で呼ばれている。

彦根城博物館

表門橋を渡ったところにあり、もとは藩の表御殿。市制50周年を記念し、昭和62年(1987)に建てられた。井伊家に伝わる多数の美術工芸品の展示のほか、能舞台や藩主の私生活の場である御座の間や茶室が木造で復元されており、博物館そのものが展示建造物として楽しめる。なお、能舞台では毎年演能が催され、幽玄の世界が鑑賞できる。



らくらくえん

楽々園(名勝)

彦根藩の下屋敷(機御殿)の建物部分を楽々園という。幕末の大老・井伊直弼もここで生まれた。



城内各所の代表的な見どころ

重要文化財の櫓、大名庭園と表御殿。時空を越えて、いま輝きを放つ。

彦根城の魅力は国宝天守だけでなく、二重の堀に囲まれた城郭が、ほぼ江戸時代の姿をとどめているところにあります。ゆくりと城内各所の見どころを巡れば、歴史とロマンを体感することができそうですね。